HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ヨーロッパバレイショ研究協会の活動
Author(s)	岩間, 和人
Citation	日本作物學會紀事, 59(3), 592
Issue Date	1990-09-05
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/47015
Type	journal article
File Information	110001732415.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

The Crop Science Society of Japan

日作紀（Japan. Jour. Crop Sci.）59(3)：592（1990）

研究情報

ヨーロッパバレイショ研究協会の活動

岩間和人
（三重大学教育学部）

ヨーロッパバレイショ研究協会（European Association for Potato Research, EAPR）は，その名前の通りバレイショのみを対象にした学会である．設立は1957年と比較的新しく，現在の会員数は個人が700，賛助会員が80である．個人会員の約80%は東欧を含むヨーロッパ諸国の会員，残りは南北アメリカ，オーストラリア，アジア，アフリカの38ヵ国に分散している．日本にも4名の会員がいる．バレイショを対象にした学会は，EAPRの他にもアジア，アフリカ，アメリカ等の各地域にある．この中で，アメリカ合衆国とカナダを中心にしたアメリカバレイショ協会（Potato Association of America, PAA）は，設立年次も古く，また会員数も多い．しかし，会員の所属国数などをみると，EAPRは国際色が最も強く，現在のところバレイショについての国際学会の役割を担っている．

学会誌としては，Potato Researchが年4回発行されている．以前はEuropean Potato Journalと称していたが，1970年の第13巻から現在の雑誌名になった．ヨーロッパ各国の約10名が編集委員になっている．定期的な交代制ではなく，いったん選出されるとその個人の都合が悪く成らない限り継続しているようである．発行の業務は，一貫してオランダのワーゲニンゲンにある協会の事務所が取扱っている（会員の会費納入等の事務連絡もこの事務所が取扱っている）．使用言語は，英語，ドイツ語，フランス語のいずれかであるが，1988年の第31巻では総論文数72編のうち英語が62編をしめている．しかし，本文がいずれの言語の場合でも，図表の説明と要約については，編集委員会の責任で他の2言語に翻訳されて併記されている．非会員でも投稿でき，論文掲載料は8ページまでは無料である．なお，学会誌の配付数は1152で，73カ国にわたっている．流通国数の多さにも，この学会の国際性が現れている．

1987年から1989年の3カ年に掲載された論文178編の分野をみると，病理に関するものが最も多く76編（42%），次いで栽培と生理に関するものが55編（31%），遺伝と育種に関するものが26編（15%），加工に関するものが21編（12%）であった．栽培と生理の分野では，最近多くなった熱帯地域での栽培に関係したものが13編ある．特に熱帯地域での栽培で問題となる温度との関係をみたものが多い．また，水ストレスに関するものも多く，12編をかぞえた．さらに，収穫物の品質に影響するいも数と一個重の関係やこれにかかわる茎数と種いもの齢に関する報告が16編あった．この他に，形態と乾物生産との関係やホルモン等の体内物質についての報告が数編ずつみられた．

研究講演会は，ヨーロッパ諸国の持回りで，3年に1回，1週間の日程で開かれる．筆者は1987年にデンマークのオールボーで開催された第10回の講演会に参加したが，参加者は47カ国からの約650名であった．午前中には主として招待者による講演が行われ，デンマークにおけるバレイショの研究，生産および利用の状況，北欧諸国におけるバレイショ育種，バレイショ育種における新手法と技術の評価，そして真正種子についての要約が述べられた．また，一般講演では269題の講演が行なわれた．発表分野は，栽培，生理，遺伝，育種，病理，加工とバレイショに関する全ての分野を網羅していた．栽培と生理の分野でも発表は多岐にわたっていたが，前述したいも数の制御要因についての発表が目に付いた．真正種子の育種と栽培についての発表も多かった．

これらの研究発表を一通り聞けば，その時点における世界各国のバレイショ研究の状況をほぼ把握できると感じた．また，学会参加者の研究分野は様々であるが，いずれも最終目標としてバレイショの生産の改良に寄与しようとする共通の認識を持っているように感じた．このような学会の性格は，バレイショにかかわるあらゆる種類の企業が賛助会員として名を連ねていることにも現れている．また，講演会の懇親会にバレイショの加工業者や種いも生産者の姿が多く見られたことも，その性格の現れであろう．なお蛇足であるが，この懇親会はエレガンスにはほど遠く，いも臭くそして親密であった．

EAPR　事務所（入会等の問い合せ先）：EAPR, Postbus 20, 6700 AA Wageningen, the Netherlands.

NII-Electronic Library Service